<p>目指す学校像 (教育方針)</p>	<p>◇【自治】道義と秩序を重んじ、自己に責任を持つ自主・自律生活の実践を図る学校 ◇【勤勉】学問尊重と真理を求める気風の育成を図る学校 ◇【快活】自他の敬愛と協力による豊かで快活な生活態度の樹立を図る学校</p>			
<p>三つの方針</p>		<p>具 体 的 目 標</p>		
<p>「三つの方針」 (スクール・ポリシー)</p>	<p>「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<p>卒業までに次のような生徒を育成します。 (1) 思考力・判断力・表現力を身に付け、主体的に課題発見・解決に取り組む生徒 (2) 国際感覚を身に付け、グローバル化が進展する社会で活躍できることのできる生徒 (3) 「自治・勤勉・快活」の校訓にもとづき、地域や国際社会のリーダーとなることのできる生徒</p>		
	<p>「教育課程の編成・実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>次の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。 【知】コース選択制、進学重視型単位制を活かした教育課程を編成及び実施し、生徒一人一人の学力向上と進路実現を図る学校 【徳】カリキュラム・マネジメントを推進し、探究学習、キャリア教育等を充実させ、課題発見・解決能力、豊かな人間性と社会に貢献できる力を育成する学校 【体】特別活動、部活動等への生徒の主体的な取組を推進し、心身の健全な育成を図る学校</p>		
	<p>「入学者の受け入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>次のような生徒を求めています。 (1) 探究心があり、学習意欲の高い生徒 (2) 地域や国際社会に貢献する意欲の高い生徒 (3) 諸活動に積極的に取り組み、自分と集団を成長させる意欲の高い生徒</p>		
<p>昨年度の成果と課題</p>		<p>重点項目</p>	<p>重点目標</p>	<p>達成状況</p>
<p>●対話的でわかりやすい授業の実践に努めているが、家庭学習が習慣化されている生徒が少ないため、学習調査結果を踏まえ、学習時間の確保に向けた取り組みを継続する必要がある。中高一貫教育校の良さを最大限に生かすカリキュラムの構築を、高校と附属中学校が協働して進めていく必要がある。</p>		<p>学力向上 生徒の学力向上に努める。そのために学習指導の充実を図り、手段としてICT機器の効果的な活用に取り組む。</p>	<p>◇教科指導の充実・学力向上 ア 指導体制の充実と授業時間の確保 イ アクティブ・ラーニングを取り入れた指導方法の改善と工夫 ウ 自学自習と学習活動の習慣化 ◇授業第一主義 ア 予習をして授業に臨み、復習をして学力を身に付けさせる鹿島スタイルの浸透</p>	<p>B</p>
		<p>進路指導の充実 (大学進学支援及び幅広い進路希望支援) 自分を見つめ、将来に対する目的意識を持ち、進学及び就職等の進路を自ら選択・決定し、自己実現ができるよう指導の充実を努める。</p>	<p>◇進路指導の強化 個人面談等を繰り返し行い、進学目標の早期明確化と、その目標実現に向けた効果的・継続的な取組 ◇就職指導の充実 資格取得の奨励や望ましい職業観・勤労観の育成を推進</p>	<p>B</p>
		<p>授業改善</p>	<p>◇授業満足度 (KPI) 3.44以上の達成</p>	<p></p>

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>●進学実績は大学進学129名で、延べ合格者数は268名であった。また、国公立大学現役合格者は茨城大学の現役合格者7名を含む11名であった。今後も生徒本人が将来の明確な目的を持った上での進学者数の増加を図っていききたい。就職では、公務員や地元企業等に31名が合格し、本年度も内定率100%を達成した。高校3年間を見通した組織的・継続的な進路指導を行うとともに、キャリア教育の充実を図る。</p>	<p>基本的な生活習慣の確立 (「み・そ・あ・じ」指導の徹底) 学校として統一的な指導体制を堅持し、家庭や関係機関との連携を組織的に進めながら、自主的・自律的かつ責任ある行動のとれる人間の育成を図る。</p>	<p>◇秩序を重んじ、自ら律する心や他人を思いやる心の育成 ア 人権尊重(偏見・差別をなくす) イ 規律の遵守 ◇健康・安全意識の高揚と、交通安全・防災教育の充実 ア 交通安全教育の充実 イ 防災教育の充実 ウ 性教育(エイズ教育等)の推進 エ 薬物乱用防止教育の推進</p>	A
	<p>特別活動・部活動の振興 (学校生活の充実支援) 特別活動・部活動を積極的に推進し、全人的発達に努める。</p>	<p>◇ホームルーム・生徒会活動の活性化 ◇部活動を奨励し、心身の健康の維持・増進 ア 施設設備の効率的利用 イ 他校・地域の行事やボランティア活動の理解と参加</p>	A
<p>●部活動の加入率は、70%を超えている。複数の部活動が各種大会において上位入賞、関東大会以上の大会に出場を果たすなど、学校全体に次第に活気が戻ってきており生徒たちの部活動への意欲は高く維持されていた。本校の伝統である文武両道を維持し、心身共に健全な生徒の育成に努めたい。</p>	<p>広報広聴・生徒募集活動の充実</p>	<p>◇本校への理解促進を図るため、情報収集及び情報発信を積極的に行う。 ◇生徒募集活動を工夫し、計画的に及び随時行う。</p>	A
	<p>コンプライアンスの徹底(「たいせつです」運動)及び働き方改革の推進</p>	<p>◇「たいせつです」運動の推進を含め教職員のコンプライアンス意識を高め、服務規程の確保に努めるとともに、教職員の「働き過ぎ」を防ぐなど働き方改革を推進する。 「たいせつです」:体罰の根絶・飲酒運転の根絶・セクハラ等の根絶・使い込みの根絶・データ漏洩の防止・スピード違反の防止</p>	B
<p>●学校近隣の住民や、地域の小学校や中学校に対し、定期的にホームページの更新や学校便り等で情報を提供し、地域に愛される学校づくりに努めていきたい。</p>	<p>学校組織運営の見直し</p>	<p>◇校務分掌・学年等の組織内の業務平準化への取組の推進 ◇職場環境整備の推進</p>	B
	<p>デジタル環境の整備と教育内容の充実</p>	<p>◇デジタル環境の整備 ア 3Dプリンターや高性能パソコン等を講義室Cに配備し、STEAM labとしていつでも生徒が利用できる環境を整える。活用にあたっては、生徒、教員に向けた研修を実施し、授業、探究活動、部活動等で自由に活用できることとする。 イ 総合的な探究の時間では、アイデアを具体化する場面において、3Dプリンタ等を活用するなど、ICT機器の活用を促す。 ウ 企業等との連携により、ICT機器の活用研修を行う。 エ 探究的な学び等において、関係機関等との連携協力体制を活用する。 オ 情報に関する学会等へ参加することで大学、企業や研究機関と連携し、デジタル関連の活動を通して生徒が自らのアイデアを具体化できる環境の整備を進める。 カ 本校で実施する学校公開、小中学生向け学校説明会において、STEAM labによる実習を実施する。 ◇教育内容の充実 ア これまで学校設定科目「プロジェクト-K」で育成してきた、様々な実験を通して大学に必要なレポート作成の基礎や自ら課題を発見し、解決する力を強化する。 イ 根拠のある解決策の提案や、データの活用等について、大学・専門機関・企業等と連携したうえで、ICT機器を効果的に活用しながら、科学的根拠をもって課題解決に取り組む、分野横断的な探究を進めることのできる環境の整備を推進 ウ 今年度から、スポット的に連携予定大学の教員によるデータ分析に係る授業を実施し、次年度以降の本格実施につなげる。 エ 県内外の大学や研究機関との関係を強化し、生徒の進路希望に応じた研究室訪問や、学生メンターによる探究サポートなどを進める。 オ 総合的な探究の時間及び情報Iにおいて、情報モラルを取り上げて学習を行う。</p>	A

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導 (全体)		基礎・基本の確かな定着	基礎・基本を定着させるために練習問題等を積極的に課し、反復学習を徹底させる。	A	A 指導と評価の一体化の完成に向けて、評価方法の妥当性、正確性について、教員全体での研修を行う必要がある。
		わかりやすい授業の展開	「主体的・対話的で深い学び」を実現する指導方法を研究し、指導力向上に努める。	B	
			教員間で学習指導に関する情報交換を密に行い、自らの授業改善に活かす。	A	
			生徒の理解度を的確に把握し、確実に理解できる指導方法を工夫改善していく。	A	
	学習習慣の確立	家庭での自主学習の必要性和効果が実感できる授業を展開し、学習の習慣化を図る。	A		
教 科	国 語	基礎学力の向上と、家庭での学習習慣の定着	小テストなど具体的な学習課題を課し、確かな基礎学力の向上を図る。	A	B 2年次で始まった少人数制授業をより充実させていく。共通テストの新傾向問題に対応できるよう、資料の読み取りを増やす授業を展開していく。その際、ICTを活用し主体的な学びにつなげる。
			新聞を活用した学習や図書の紹介などをおして、国語体験の充実を図る。	A	
			漢字検定や読書感想文コンクール参加等をおして、語彙力や作文力の向上を図る。	A	
			「ことばのイメージ化」を効率よく図り、理解を深めるために、電子黒板・Chrome book等を積極的に活用する。	B	
	授業の改善	年間指導計画と評価規準を活用して、授業目標の具現化を図る。	B		
		生徒の学習状況や理解度を把握し、授業に活かすための指導方法の工夫改善を図る。	B		
		各種研修会に参加して教科研修に励み、自己研鑽に努め指導力向上を図る。	A		
		電子黒板等のICTを適切に授業に取り入れられるよう、定期的に教科研修を行う。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
地 歴	基礎学力の向上・授業改善	基礎・基本を大切にし、わからない語句は自ら調べることにより、学習内容を理解させる。	B	ICT機器を活用した授業を展開しており、今後も継続させていく。また、実物教材を使った授業についても同様に継続していく。		
		单元ごとに復習プリントや小テスト等を実施し、知識の定着を図る。	B			
		生徒への個別対応を重視し、考査前などの十分な補習時間の確保に努める。	A			
		視聴覚教材やICT機器を活用した授業の充実を図る。	B			
	地理・歴史への興味、関心を高める授業の工夫・改善	大学入試新テストに即した指導の実践と、多様な指導方法を身につける。	A			
		実物や視聴覚教材等の積極的な活用により、興味・関心を高める。	A			
		資料の活用・レポートの作成や発表会等の活動を行い、主体的に学習できる機運を高める。	B			
	郷土を知り、郷土の歴史や伝統を守る気風の育成	郷土の地理・歴史を学ぶことにより、自ら調べたり考察したりする態度を育てる。	A			
	教 公 民 科	基礎学力の向上・授業改善	基礎・基本を大切にし、わからない語句は自ら調べることにより、学習内容を理解させる。		B	ICT機器を活用した授業を展開しており、今後も継続させていく。また、時事問題を授業で扱ったり主権者教育・理解啓発についても同様に継続していく。
			单元ごとに復習プリントや小テスト等を実施し、知識の定着を図る。		A	
			生徒への個別対応を重視し、考査前などの十分な補習時間の確保に努める。		A	
			視聴覚教材やICT機器を活用した授業の充実を図る。		B	
現代社会への興味・関心を高める授業の工夫・改善		大学入試新テストに即した指導の実践と、多様な指導方法を身につける。	A			
		新聞や視聴覚教材等の積極的な活用により具体的事象を認識し、興味・関心を高める。	B			
		時事問題を積極的に取り入れ、今を知り、未来を考えさせる機会を増やす。	A			
人間としての在り方・生き方を考えさせる機会を増やし、職業観・人生観や公民としての在り方の育成		模擬投票などの取り組みを行い、主権者として関心や意識を向上させる。	A			
		青年期の問題を自己の問題として捉えさせ、職業観・人生観について考える機会を増や	B			
		政治や選挙等について、高校生副教材を用いながら指導を充実させる。	A			
数 学		基礎学力の向上	現代社会の抱える諸課題や自分の考えをレポート等にまとめることにより、公民としての在り方、生き方を考えさせる。	A		
			考査結果を主に学習の理解度を客観的に把握・分析し、理解の不十分な生徒に対して復習を主とした補習等の対応を充実させる。	B	1年次で本格始動した少人数習熟度授業のさらなる充実を図る。大学進学志望者増加に伴う課題の精選、課外の充実を図る。教材の共有化や蓄積をより進める。	
	ICTを活用した指導方法を充実させ、視覚的理解を得やすい指導を図る。		B			
	教科書や問題集の内容から定期的に課題を与えることで、予習・復習の習慣化を図る。	A				
	進路希望に応じた指導	副教材や課題をコース毎に分類するとともに、習熟度別に応じた指導を徹底する。	A			
		大学入学共通テストに即した指導の実践を行い、受験に向けたきめ細かい指導をする。	A			
	指導と評価の改善	授業進度の確認や生徒の理解状況などを共有することで、授業の質の向上、改善に努める。	B			
		単元目標を明確にした指導と評価を行い、生徒の学習意欲の向上を図る。	B			
	理 科	科学的に探究する能力と態度の育成及び授業改善	アクティブ・ラーニングを重視した観察・実験をとおして理解を深めさせる指導方法の充実を図る。	A	各科目において、生徒の実態に合わせた内容で授業を行うことが出来た。課題としては、プロジェクト-K(特に2年次の)を持続可能な形に改善していくことである。	
			ワークシートの活用をとおして、考え方の道筋をより理解できるように工夫する。	A		
		科学的な自然観の育成	学習内容と自然現象や科学技術との関係を示し、生徒の興味・関心を育てる。	B		
			発問や問題演習の中で生徒からの質問を促し、双方向的かつ探究的な授業を行う。	A		
	課題をとおして、授業の復習を徹底し、授業内容のより一層の理解と定着を図る。	A				

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教	保健 体育	グループ活動をとおして各グループの課題に気付かせ、互いに学び認め合う態度の育成と協働的に課題解決できるための場の設定を行う。	B	次年度は、生徒の指導方法に工夫を施した授業展開を行うとともに、体力増進に焦点を当てていく。体力テスト下位層の体力アップも年度初めに授業内容の工夫で補っていききたい。		
		ICT機器を活用してトップレベルとの技能比較を行い、練習方法を考えさせる場の設定を図る。	B			
		運動に積極的に取り組めるような活気あふれる雰囲気作りをする。	A			
		生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力の育成	A			
		生徒の能力・適正、興味・関心等に応じて種目選択を促し活動意欲の向上を図る。	B			
		日常生活に運動を計画的・継続的に取り入れることのできる指導方法を工夫する。	A			
	健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上	健康診断や体力測定結果を踏まえ、健康の保持増進と体力向上を目指す態度を育成する。	A			
		現代の健康課題を明確に捉え、より健康増進を目指すための知識や手段を実践できる態度の育成を目指した授業内容と指導方法を工夫する。	B			
	芸 術	授業において芸術の幅広い活動を展開	科目ごとに実践的・体験的な諸活動を多く取り入れた指導内容の工夫をする。		A	次年度は、芸術を愛好する心情の育成に向けて、日本の伝統芸術をはじめ、様々な芸術文化の美しさや多様性を考える機会を多く設けていきたい。
			鑑賞をとおして、創造・表現力を向上させる言語活動を重視した指導方法を工夫する。		A	
			生徒が興味や関心、個性を生かして主体的に関わっていけるよう指導方法を充実させる。		A	
		生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成	幅広い教材を取り上げ、生徒のもつ芸術的な価値意識を一層拡大できるよう教材を工夫する。		B	
			生活を明るく豊かにするための創造活動を重視し基礎的な資質能力を育成する指導内容・教材を工夫する。		B	
		我が国の伝統や諸外国の芸術・文化についての関心や理解の探究	日本の伝統音楽に触れる機会を増やし、歴史や哲学など発展的な学習を工夫する。(音楽)		B	
鑑賞や制作活動を通して日本の伝統美術の独自性を考察させる指導を工夫する。(美術)			B			
それぞれの分野の歴史やその時代・生活背景について学ぶ時間をつくる場の工夫をする。			B			
科	家庭学習の習慣化	それぞれの美しさや多様性がより鮮明に感じ取れるよう教材の工夫に努める。	B	積極的にALTを活用し、生徒がネイティブの英語に触れる機会を確保できた。また、小テストを継続的に実施することで、語彙力の向上を図っている。さらに、高校生プレゼンテーションフォーラムでは、3年生のチームが県議会議長賞を受賞した。英字新聞甲子園やトビタテ！留学ジャパンへのエントリーなど、積極的な取り組みが見られた。来年度も引き続き、生徒の積極的な活動を促し、ICTの効果的な活用を進めていきたい。		
		「鹿島スタイル」である予習・授業・復習のサイクルを確立させ、家庭学習の習慣化を図る。	A			
	基礎学力の向上	授業中の声かけ、机間指導、定期的なノートや課題等の点検を通して生徒の理解度を的確に把握し、適切な指導に活かす。	A			
		定期的な小テストや語彙力育成等を実施し、基礎学力の定着・向上を図る。	A			
		実用英語技能検定等の受験を積極的に奨励し、計画的・継続的に対策指導を実施する。	A			
	英語力の更なる向上	インタラクティブ・フォーラム、スピーチコンテストなど校外で開催される英語活動への参加者を増やし、総合的な対策指導を行う。	A			
		ICT機器を積極的に活用し、4技能5領域の英語力をバランス良く高める指導を行う。	B			
	生徒が意欲的に取り組む授業への工夫と改善	授業内容や指導方法について、教員間で情報共有を行い常に授業の工夫改善を行う。	A			
		学校設定科目「ACEプログラム」と「英語読解」の授業を通して、英語への関心をさらに高めさせる指導方法の工夫をする。	A			
新学習指導要領及び『大学入試共通テスト』等に対応した指導が行えるよう、研修会等に参加したり、関連書物で情報を得るなどして、指導内容及び方法の幅を広げる。		B				

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教 科	家 庭	授業内容の研究と工夫・改善	生徒の学習意欲を高める指導方法の研究と、生徒の自立に役立つ授業を展開・実践する。生徒が生活の課題を発見し、解決する能力を身に着けるために、授業内容の工夫と改善をする。	A	A	生徒が生活にかかわる実践力を向上させることができるように、指導方法の改善や単元計画の工夫に取り組む。また、引き続きICT機器を活用して、効率よく授業を進められるようにする。
		生活に必要な基礎知識と基礎技能の習得 実習・実験の充実	実験・実習を通して、生活に必要な基礎知識と基礎技能の定着を図り、青年期として自立を推進できる学習内容を工夫する。	A		
			生活に必要な基礎知識と基礎技能を習得させ、自らの家庭生活を創造する能力と実践的態度を育てるために、継続的に指導内容や指導方法の工夫と改善をする。	A		
	情 報	コンピュータの基本操作の理解	普段からコンピュータの効果的な活用を目指し、操作技能を高める指導内容を工夫する。 アプリケーションソフトウェアの基本的な操作方法を理解させる授業内容の工夫をする。	A A	A	情報モラル等の知識について、継続して指導をする。また、ICT機器の効果的な活用法についての研修が必要である。共通試験対策を計画的に進める。
		情報通信ネットワークの理解	情報通信ネットワークに関する情報収集や発信において、信頼性や信憑性を留意させるとともに、個人情報保護や著作権等にも配慮させ、情報化社会に必要な心構えについて学習させる。	A		
	商 業	コンピュータの基本的なデータ処理	市販ソフトを活用し基本的な操作技能を身に付けさせる指導方法の工夫をする。 情報化社会に対応できる能力を身に付けさせる教材の工夫をする。	A A	B	ビジネスの実践力を身につけさせるため、具体的な対応例を行っていきたい。
		情報化社会を認識した活用技術の定着	情報化社会におけるコンピュータの役割を理解させ、専門用語や基本的なデータ処理の方法を学習するとともに、日常生活で活用できる力を身に付けさせる授業内容の工夫をする。	A		
		資格取得の奨励	生徒一人ひとりの能力に応じた受験級を設定し、検定試験により技術の到達度や知識の理解度を確認させる。	C		
	教 務	進学重視型単位制の編成並びに中高一貫教育校の運営を推進する。	グランドデザインを基に進学重視型単位制の新教育課程を編成し、高校と附属中の円滑な学校運営のために尽力する。	A	A	年間、月間行事予定の効率的な集約と円滑な実施について、また新しい評価方法に合わせた定期考査の在り方の検討が今後必要である。
		生徒が生き生きと輝く授業実践及び学習評価と校内研修の充実を図る。	定期考査の滞りない実施や、観点別評価による適正な評価により、授業へ取り組む意欲を喚起する。	A		
授業時間の確保と緊密な連絡・調整を行う。		各分掌・学年との連絡・調整のもと、行事・日程等の効率化を図りながら、授業時間の確保に努める。	B			
生徒指導	人権尊重の精神の育成	総合・道徳の時間の中で、命の尊さについて話し合い考えさせる。	B	A	情報モラルに関して、SNSの正しい使い方や使用マナーの継続した指導が必要である。交通安全においては、特に自転車運転に関して交通ルールの遵守に加え、一歩踏み込んだ危機予測力が求められる。また、車との接触等における転倒から頭部を守るためのヘルメットの着用が重要であると考え。	
		偏見や差別のない学校生活の構築に努める。	A			
		集会やホームルーム等を積極的に活用する。	A			
	基本的生活習慣の確立	規則正しい生活リズムの確立を図る。	A			
		頭髪や服装など規則厳守の精神の育成に努める。	A			
		社会の一員であることを自覚し、正しい判断力の育成に努める。	A			
	交通安全教育の推進	関係機関による講演会や校外指導を実施することで、交通事故防止に努める。	A			
		自転車・原付バイク・四輪車について、登録管理の徹底及び免許取得規定の厳守を図る。	A			
		生徒の自転車運転における損害賠償保険の加入に努める。	A			
	情報モラル教育及び有害情報対策	様々な機会を捉えて、情報活用能力の育成を図る。	A			
講演会や動画等を通して有害情報をより具体的に生徒に掲示する。		A				
薬物乱用防止教育の推進	警察をはじめ、大学や医療機関による薬物乱用防止講話を実施する。	A				
	警察や関係機関との連携を密にし、情報交換を行う。	A				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導	進路目標の実現	学習実態を含む進路希望調査を年間3回実施し、定期的に生徒の実態把握に努め、各学年の進路指導にあった適切な資料の提供を図る。	A	生徒が納得して自分で進路を決定するということを念頭に置いて指導にあたり、3学年担任団をはじめとして進路決定のサポートができたかと思われる。ただ、生徒が自分の進路を真剣に考え、準備に入るタイミングが3年に進級してからになるという印象が強い。そのため、進路実現のための準備が自然と後ろ倒しになりがちである。生徒一人ひとりが自身の進路を早期から自分のこととして考え、行動できるよう、働きかけ続けていきたい。そのために、学年との連携を強化し、より豊富な情報・環境の提供を目指す。
		全国模試・適性検査等の分析による生徒の学力状況の把握・評価を行う。	B	
		就職希望者に企業見学を実施し、一人一人に適する就職を実現し、内定率100%を目指す。	A	
	進路意識の醸成	学習指導部・各学年・各教科との連携による各種キャリア支援・進路指導の充実を図る。	B	
		大学教員による模擬授業・公開講座・大学見学会・進路講演会等の実施による生徒の進路意識の向上を図る。	A	
		総合型選抜・学校推薦型選抜に関するデータを収集・分析し、有効活用を図る。	B	
		課外授業や各種検定試験への積極的な参加を支援し、自ら学ぶ姿勢を育成する。	A	
	組織的な指導体制の構築	新課程を含む大学入学共通テストの情報収集および研究に努める。	B	
		「進路資料」を発行し、精選した進路情報を提供し、各学年の適切な進路指導をサポートする。	B	
利用促進のために進路資料室を整備し、進路相談に適切に対応できるよう努める。		B		
特別活動	ホームルーム活動の充実	生徒による主体的なHR運営と、特色のあるHR活動の実践を支援する。	B	
	生徒会活動および学校行事の充実	生徒の自主的・自発的活動を促すとともにキャリアパスカード等を活用した行事運営を実践していく、また主体的な学校行事の企画運営に関して中・高が協力して行うよう支援する。	A	
		安全管理を徹底し、各種行事をとおして自主的・自律的かつ責任ある行動がとれる人間の育成を図る。	A	
	部活動の充実	部活動を奨励し、心身の健康の維持・増進に努める。	A	
		統一的な指導体制を維持し、生徒の安全と活動を見守り、部活動の環境を整える。	A	
	ボランティア活動への理解と参加	生徒が自主的にボランティア活動ができるように情報を提供し、奉仕の心の育成を図る。	A	
地域社会に目を向け、地域に貢献する人材の育成を図る。		A		
学習指導	総合的な探究の時間の活性化	「総合的な探究の時間」の参考情報提供、研修案内等サポート体制の確立	A	総合的な探究の時間について、学習指導部で整理し、外部機関との連携を進めることで、生徒個別の興味関心に対応し、学習内容の質を向上させる必要がある。また、地域探究を柱に、自治体や企業との連携で、探究活動の質を高めた。
		生徒へ向けての「学年別進路ストーリー」資料作成・配布による探究取組支援	A	
	効果的な学習指導法の研究と実践	令和6年度「いばらき高等学校学力向上推進総合事業」への参加と教職員研修の実施	A	
		令和6年度「生徒による授業評価アンケート」の計画と実施	A	
		令和6年度「授業改善プロジェクト」における授業改善取組・支援、研修等参加	B	
		各教育研修事業の案内・推奨	A	
		小論文指導において、職員向け校内研修の実施と外部講座の推奨	A	
	学習指導部運営の円滑化	教科年計指導計画の取りまとめ	A	
学年、教科、他分掌との連携を図る		A		
図書視聴覚	図書館・視聴覚室の環境整備と充実	図書館の常時開館、視聴覚室等の環境整備に努め、利用しやすい環境づくりに努める。	A	視聴覚：体育館の放送設備の修理・点検等を経て、使用法について再確認した。職員室の放送設備の改善が急務。図書：蔵書点検の時期・方法については今年度の経験を生かし、再考すべ
		生徒や職員に購入希望調査を行い、ニーズに合った図書館づくりに取り組む。	A	
	本に親しむ環境整備	読書・学習・情報センターとして、機能的な環境づくりに努める。	A	
		図書委員会の活性化を図る。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
渉外	P T A活動・同窓会活動の推進	P T A総会や同窓会活動への参加率を上げ、活動の活性化を図る。	B	引き続きP T A総会や同窓会への参加率を上げるために理解啓発を継続する必要がある。また、同窓会組織への女性の参画を促すよう、連携を図る必要がある。
		同窓会・学校・保護者と研修会や会議等を利用して連携を図る。	A	
		同窓会組織において女性会員の参画が促されるよう役員各位と連携を図る。	B	
	保護者と学校との連携	さらに保護者と学校の緊密な連携を図る。	A	
	広報活動の充実	P T A新聞や同窓会ホームページの内容等を吟味し、その内容の充実に努める。	A	
広報活動や各種研修会に積極的に参加する。		A		
保健厚生	学習環境の整備	校内の施設設備の定期的な安全点検するとともに管理徹底を図る。	A	校舎長寿命化工事にともない、本館、特別棟の各部屋の整理を進めることができ、特に職員室の整理、リフォームを十分に行うことができた。衛生委員会を効果的、効率的に行い、行為との連携をうまく図ることができた。今後も、効果的、効果的な運営を進めていきたい。
	環境美化意識の高揚	美化委員会をはじめ、クラスや部活動などで校内の美化に努める。	A	
		ゴミの分別処理の徹底を図る。	A	
	防災・防犯訓練の充実	防災避難訓練や不審者対策としての防犯訓練等を計画的に実施する。	A	
		地域の関係機関等との連携を図る。	A	
	健康・安全教育の充実	面談、相談をとおして、生徒の健康問題等に早期に対応する。	A	
感染症対策、食生活、運動習慣確立のための情報発信を積極的に行う。		A		
心身の健康管理ができる生徒の育成	生徒の健康管理能力育成、体力の向上のための事業を計画的に実施していく。	A		
	積極的に体育的行事に参加させ、活動をとおして仲間づくりを实践させる。	A		
教育相談	問題を抱えた生徒への理解と情報の共有化	問題を抱えている生徒の早期発見と対応に努め、教員間の情報の共有化と共通理解を図る。	A	中・高全部員で生徒の情報共有・対応について協議できた。来年度は生徒全体に働きかけをしていきたい。
	校内研修の充実	多様化する生徒への対応に応じた研修を行う。	B	
情報	成績の管理	統合型校務支援システムを充実させ、生徒の成績に関する情報を管理する。	A	ICTに関する職員研修を定期的実施したことにより、教員のスキル向上が見られた。今後も、新規の対応などについて、研修を実施していきたい。
	ICT教育の推進	Chromebook・Classi等ICT機器やアプリケーションの研修等を実施し、活用促進を図る。	A	
	働き方改革の推進	勤怠管理システムの管理を行い、働き方改革を図る。	A	
	運用・管理	教育情報ネットワークのアカウント管理と、Google Classroom、Classiの運用を適切に行う。	A	
広報	企画運営の習得	様々な広報活動に取り組む中で作業内容や意義を理解する。	B	学校説明会や学校公開事業のさらなる充実を図る。そのためには教務部との連携が不可欠。ホームページを活用した広報活動は引き続き充実させる。
		附属中学校と緊密に連絡を取り合い協力して有機的な広報活動にする。	B	
	広報活動の刷新	学校ホームページを定期的に更新し、閲覧数を増やす。	A	
		スクールガイド、クリアファイル、ポスター等で本校教育活動が地域に見えるようにする。	A	
		写真や動画を積極的に活用することで、本校の教育活動を地域にわかりやすく知らせる。	A	
	学校紹介の充実	学校説明会や学校公開を状況にあわせて充実させる。	A	
鹿苑だより等で地域や保護者と情報を共有する。		A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第1年次	本校の新しい歴史と伝統を作り上げていく精神の育成	本校の歴史と伝統を自覚し、学校内外を問わず鹿島高校生としての誇りと責任ある行動を心がけ、充実した高校生活を送るための意識を高める。	A	A 課題としては、自身の進路についての意識が低く、自ら行動に移すことができる生徒が少ないこと。面談や集会等での働きかけを強め、早めに進路の方向性を決められるように指導していきたい。また、遅刻や服装が乱れるなどの基本的な生活習慣が乱れないように目を配り、授業に集中して取り組めるような声掛けをしていく。
	規範意識の涵養と心の教育	学年集会や道德等を通じて、基本的な生活習慣の確立に努める。	A	
		道德・LHRを含む教育活動全体の中で、規範意識の向上と心の教育を図る。	B	
	学力の向上と進路目標の設定	主体的に授業に取り組む姿勢を養い、基礎学力を身につけさせ、自らの成長を実感できるようにする。	A	
		予習・復習を中心に家庭学習の習慣化及び学習内容の定着を図るため各教科で小テストなどを実施し、基礎学力の定着・学力向上を目指す。	A	
進学課外や各種進路行事に積極的に参加させ、将来の進路の方向性を明確化させる。	B			
特別活動に積極的に参加する精神の高揚	部活動や生徒会活動・学校行事・ボランティア活動等への積極的な参加を促すとともに、自主・自律の姿勢を持たせ学業との両立、健全な精神の育成を図る。	A		
第2年次	学力の向上と進路目標の設定	予習・授業・復習のサイクルを確立させ、自らの学習を調整しつつ粘り強く取り組む姿勢を養い、基礎学力の定着を目指す。	A	A 最高年次生として、また進路実現に向けて、服装や頭髪などの基本的な生活習慣の確立を徹底する。進路志望の実現に向け、更なる学力の伸長や、多面的な能力の育成について年次団全員で取り組んでいく。
		課外講座への参加や発展的な学習を通して、希望進路実現のための確かな学力の育成を目指す。	A	
		各種進路行事への参加や時事問題の学習、学問研究を通して社会への課題意識と自らの適性に基づいた確かな進路選択の方向性を定めさせる。	A	
	規範意識の涵養と社会性の育成	学年集会や個別面談指導等を通じて、基本的な生活習慣の確立に努める。	B	
		TPOをわきまえ、適切な言葉遣いや挨拶などの言動ができるよう継続的に指導する。	A	
	学校生活の充実	文武両道の精神に基づき、部活動やその他課外活動と学業の両立を図れるよう継続的に指導する。	A	
修学旅行をはじめとする学年行事を有意義なものにするため、事前に綿密な計画をし、教員間の連携を図りながらその実現を目指す。		A		
特別活動に参画する精神の高揚	生徒会活動・学校行事・ボランティア活動等の社会活動への積極的な参加を促し、活動を通して学校や社会の一人としての当事者意識を高める。	A		
第3学年	規範意識の涵養と主体性・社会性の育成	社会で通用する言葉遣い、挨拶などTPOをわきまえた言動ができるように指導する。	B	A 希望進路の実現に向けて、生徒との連絡・相談を密接に行い、適切な助言・指導を行うことができた。進路指導部との連携を図りながら、学年の先生方のみならず、他学年の先生方の協力を得ながら、面接指導や土曜課外の監督などを計画したが、面接指導では多くの先生方のアドバイスをいただき、よりきめ細かい指導ができた。各種検定やボランティア活動などに積極的に挑戦する生徒が多くいたが、活動に参加する生徒が固定されている面も見られたので、未経験の生徒にもボランティアの意識を広げようとして、呼びかけをしていく。
		集団の中での役割を自覚し主体的に行動するとともに、社会性を身に付けるため様々な教育活動を通して責任感や助け合いの精神を育成し、他者を思いやることのできるよう指導する。	A	
	進路実現のための確かな学力を身につける	面談等の個別指導の充実を図り、良い進路選択ができるように生徒に寄り添い、助言・指導しながら進路指導を丁寧的確に行う。	A	
		予習・復習の徹底(鹿島スタイル)を図りながら授業に集中し、家庭学習も定着させ、希望進路の実現に向けて生徒の学力向上を図る。	B	
	高校生活の充実	自主・自立の姿勢を中心に部活動と学業の両立を図るよう、継続的に指導する。	A	
生徒会活動・学校行事・ボランティア活動等の社会貢献活動への積極的な参加を促し、健全な精神の育成を図り高校生活の集大成として充実した学校生活を送れるよう支援する。		A		

※ 評価基準

A=大変良くできた B=良くできた C=普通 D=やや不十分 E=不十分